

山下久仁明 著

ぶどう社初の小説!

# ぼくはうみが みたくなりました



山下久仁明  
ぼくはうみが  
みたくなりました

自閉症クンと看護学生さんが  
海へドライブ……  
そこから始まるドラマ

本体一六〇〇円＋税 A5判・一七六頁

\*作者のプロフィール  
日本大学芸術学部放送学科卒業  
日本シナリオ作家協会会員  
しょうがい児の放課後活動の場  
「フリースペースつくしんぼ」代表  
自閉症児の父親……

【あらすじ】

明日美は、看護学校に通う女子学生。ただ、学校をやめようかと悩んでいた。そんな明日美が、一人でドライブに出た。つらかったり悲しかったりしたとき、いつも行く場所があった。そこで、少し年下に見える彼と出会った……。

「海を見に行きませんか？」

明日美は、彼をドライブに誘ってみた。彼を助手席に乗せ、湘南へと向かう。

でも、ちっとも楽しくない。

彼は、名前も教えてくれない。

一言も口をきいてくれない。

こんなことなら一人の方がよっぽどまし……。

海岸沿いの駐車場で休憩していると、

老夫婦が、声をかけてきた。

城ヶ島まで乗せてって欲しい、と言う。

二人でいるより四人の方が気楽になれそう。

こうして、四人の小さな旅がはじまった。

一泊二日の小旅行……。

やがて明日美は、彼が少しずつわかってきた。自閉症が、ちょっとだけわかってきた……。

「自閉症のことを少しでも知ってる人はきっと一気に読んでしまうと思う。自閉症のことを知りたい人にはバイブルになると思う」

「専門書や親の手記は何冊も読みましたが、それらとは違う感動があります」

「これが映画になったら、レイマン以来のヒット作になるんじゃないかな」

「風通しのよい作品。なんか舞台がとても広いんですよ。登場人物のまわりの空気の流れや太陽の光がわかるんですよね」

「なんといっても淳一君のモノログ。最初は詩なのかと思った」

「お涙ちょうだいじゃないのに、泣けてしまう。なんか嬉しくて泣けてくるのかな」

★応援サイトもよろしく ⇒ <http://homepage2.nifty.com/bokuumi/>

続々、感動の声が

ぶどう社

東京都千代田区神田小川町 3-5-4 お茶の水S.C. 905  
TEL 03-5283-7544 FAX 03-3295-5211  
ホームページ [www.budousha.co.jp](http://www.budousha.co.jp)

\*全国どこ書店からも注文できます  
\*ぶどう社へTELかFAXでご注文を  
(送料サービス・後払い)

「ぼくはうみがみたくなりました」を \_\_\_\_\_ 冊、申し込みます。

●お名前

●送り先 〒

●お電話